

公益信託世田谷まちづくりファンド

第26回助成事業 審査講評

キラ星応援コミュニティ部門

【1回目応募グループ】

＜特定非営利活動法人 ダンスラボラトリー＞

- ・障害があってもなくても行ける地域のダンス教室は、多くの人の居場所になると思います。しかもその活動が特定の人たちだけに閉じるのではなく、地域イベントへの参加や多様な人との触れ合う機会に開かれたかたちで継続できれば、より多くの可能性が開かれるでしょう。その一歩としての1000人動画には大きな期待が持てますし、心のバリアの少ない地域の実現に少しずつ近づいていくと思います。
- ・オリンピック・パラリンピックのエキシビジョンに出演する事が通過点であって目標ではないという事でしたが皆様の活躍する姿を是非、見てみたいと思いました。障害者にとってまだ住み難い環境にあるので、皆様の活動をきっかけにしてもっと前に出やすい環境作りを目指してください。1000人動画も是非見たいです。
- ・多くの人から賛同を得るために、いかに共感の得やすい目標を設定するかは工夫のしどころですが、その点で、今回の「1000人動画」は魅力ある提案でした。誰にもわかりやすく、また参加のしやすさがあります。審査会の席上、映された写真には気持ちがワクワクと浮き立ち、これから作成される動画に思いを馳せました。運営委員や来場者の皆さんの多くがそう感じたのではないのでしょうか。私も今から出来上がりが楽しみです。一方で、数値目標の達成ばかりに気を取られないようにしなければなりません。肝心なのは、ダンスラボラトリーのファンを増やすことです。動画を集める過程で出会う一人一人としっかりと対話することが、今後につながる関係を築くためにも大事だと思います。皆さんの取り組みを心より応援しています。

- ・まず、障害の有無、国籍、年齢の違いを超えた社会関係を生み出そうとする問題意識は素晴らしく、また「ダンス」という万人に可能な表現を媒介に、それを行おうとしている点においてとても優れた活動だと考えます。確かにオリンピック・パラリンピックは多くの人々が注目する希有な機会であり、最大限活用すべきと思われますが、それ以上に、日常の中に多様な人々の接点（交わる場）をつくり、それを経営面でも持続可能にすることを団体の明確な目標に設定していただきたいです。関わっているボランティアも多くいらっしゃると思いますが、ボランティアを含めた団体全体のマネジメントのあり方を見出せるように取り組みを進めてください。
- ・インクルーシブな社会の実現という貴団体の目標は私が所属する活動の目標と重なり共感しましたが、それと20年オリパラ出場との関係がよくわかりませんでした。しかし、川崎ハロウィンでの貴団体メンバーと観客との笑顔のハイタッチを見てわかりました。こんな笑顔の交流が日本中に、世界中にダンスによって広がれば素晴らしい社会が実現することが。そのためにも一つお願いがあります。最終審査会の時にプレゼンのやり方がイマイチでしたが、そういう点もメンターの方から学んで、みなさんの活動の素晴らしさを世界に最大限にアピールできるようにしてください。
- ・2020年をどう迎えられるか、大きな夢を描きながら、ダンスを通して障がい者がまちに溶け込むという日常を実現するためのステップを、このファンドを活用して踏んで行ってもらえたらうれしいです。ぜひ、組織基盤、事業基盤づくりにもしっかり取り組んでください！
- ・INSPIREの動画サンプルを見てSNSなどを通じた情報拡散のイメージが湧きました。活動のプラットフォームとしてダンス教室の展開というベーシックな事業にも期待します。
- ・ダンスラボラトリーさんは、私がまちづくりの現場として深く関わっている川崎でも活発に活動しているのを拝見しており、障がいを持った子どもが健常者とともにダンスを通してイキイキと活躍できる場づくりを進めていることに感服しております。
今回は世田谷のメンバーを中心に、キラ星部門を使った新しい2年間のチャレンジを通して、川崎では得られなかった社会的なインパクトを目指されるということで、そこからより大きな活動に広がっていくことを期待しています。

映像や SNS などのメディアを活用することで、今までこのような取り組みを知り得ることがなかった人にいかにリーチできるのかが肝になってくると思います。こうしたリーチ数や参加者数を成果としてお伝えいただくと共に、多様な世代や立場の人の生の声を届けていただくことを期待します。

- ・ 助成決定、おめでとうございます。既に素晴らしい実績があり、逆に本ファンドが貴団体にとり、どのような価値をもたらしているのかが気になります。私自身、本キラ星ファンドの卒業生として感じるのは、助成金もさることながら、メンターという、今までの自分のネットワークにはない繋がりを得られたことに大きな意義があったように思います。今後の貴団体の事業性を鑑みるに、NPO 法人とはいえ、しっかりとした財政基盤の構築、ひいてはビジネス視点でのマネタイズスキルが欠かせません。ぜひ、メンターと共に、新たな視座に立っての事業運営を進めていただけるとうれしいなと思います。

【2回目応募グループ】

<ビオキッズ実行委員会>

- ・子どもの遊びの本質を映画にする、しかも地域の暮らしの現場で撮影する。こうしたアクションを通じて、子育てや教育の関係者だけではなく、地域の多様な立場の人にとっても、自分たちの生活環境や学びの価値観を見直すきっかけになりそうです。
美しい映像と、丁寧なワークショップデザインによって、10年後から振り返って画期をなすプロジェクトに育っていくことを期待しています。
- ・当日の講評でも述べましたが資金計画にとっても不安があります。審査会終了後から12月半ばの現在でもクラウドファンディングはあまり集まっていないようです。最低でも週に1~2度SNSで情報を発信したり、この活動に共感を得ている方にSNSで拡散を依頼したりビオキッズのページにコメントをお願いして目標額が集まるように工夫して下さい。完成版が見る事を楽しみにしております。
- ・羽根木プレーパークに始まり、子どもの遊び場づくりの活動は、この40年間に多様に広がりました。冒険遊び場が全国各地に出現し、そしてまた「プレイワーク」「そとあそび」「子育てひろば」など遊びや子どもが育つ環境に着目した活動が次々と生まれ、ビオキッズと目的を共有する取り組みの厚みは増していると感じます。一方で、ビオキッズの活動の動機のように、遊びへの理解が進んだかと言えばそうではなく、反対に子どもをとりまく環境は変質しますます深刻化しています。こうした解決が容易ではない現状に対して、今回の提案では、他団体と連携して取り組むとのこと、それがとても重要と思いました。ぜひ連携の輪を広げてください。直接的に遊びや子どもに関わる団体ではなくても、めざす社会像を共有することで一緒に取り組めることはあります。むしろ、今までにない連携によって、できることの幅が広がるかもしれません。ビオキッズが真ん中にいるからこそ、ユニークなネットワークをつくり、一歩ずつ前進してください。今後を期待しています。
- ・近年は地方部ですら「外遊びの能力」が失われ、本事業が扱っているのは世田谷などの都市部に限らない全国共通の喫緊の課題であって、この点において強く応援したいと思っています。映像制作資金の集ま

りが遅い点は心配ですが、映画自体の完成については、信じるに足るプレゼンをしていただけたと思います。一方、映画を完成させた後の「活用方法」についてはこの一年をかけてしっかり考えていただきたいです。映像上映から「子どもの遊びを見守るコミュニティ」が形成されるようになるまでにはどのようなプロセスが必要かをシミュレートし、そのためのサポートのあり方を明確化するように努めてください。

- 1年目から映画製作の活動がやや迷走しているように見え心配でした。でも、実際のビオキッズのイベントへ行くとともに楽しくて、居心地が良くて、空の下のこの空間の素晴らしさを全国の人に知ってほしいと私も思いました。子どもがどんどんインドア化するこの時代、「外遊び」が子どもの成長にいかにか大切かという事の布教方法を、今後この映画、ワークショップ以外の方法も考えていってください。
 - 予定通りにいかないこともあると思いますが、沢山のつながりや現場からの実績を力に、今までよりも遠くに届けるための機会や仕組み、それを支える組織としての力と信用を築いていくためにこのファン্ডを役立ててください！
 - これまで継続してきたビオキッズのイベントと、映画製作の相乗効果に期待しています。映画づくりに向けて巻き込んできた多くの人々とのネットワークを大切にしてください。
 - ビオキッズの活動は、世田谷のまちづくりのレジェンド的存在であるプレーパークを、全く新しい切り口で若い子育て世代に伝え広げていく大きなムーブメントだと認識しており、デザイナーとしての洗練された企画の魅せ方も大きな武器だと思っております。イベントとしてのビオキッズに参加できない人にも、プレーパークや外遊びの魅力を伝えるための手段として「映画」と「ワークショップ」というパッケージを選ばれたということで、2年目においてはその映画の完成が何よりも楽しみです。
- また、まちづくりの支援をする立場としては、この映画がまちづくりに関心を持つ人の裾野を広げる手法として、遊びの分野以外にもスキームが飛び火していくことも期待しています。
- 失敗や困難はこれからも多いと思いますが、走り抜いて生まれる成果を期待していますし、応援していきたいと思っております。

- ・助成決定、おめでとうございます。映像を作り出すことが、新たな受託につながるというビジネスモデルと理解しましたが、案件ごとの工数負荷を考えるとスケールしうるモデルにないような気がします。一方で、クリエイターとして、徹底して高いクオリティを求め、それが突破口となって、想定外の事業モデルにつながるケースもあるように思います。ぜひ、マネタイズの成果によらず、有り体のビジネスモデルで取り繕うことなく、徹底してクオリティの高いクリエイティビティ（映像）を発揮いただけるとうれしいなと思います。

<おやまちプロジェクト>

- ・ 今回の3団体の中で宿題の回答が一番満足出来る内容でした。一步一步、確実に進んでいるように思います。様々な団体と繋がりがありますが（例えば校長先生の異動等でも）継続的に活動できるように頑張ってください。Airbnbとの取組みとか来年の報告を楽しみにしています。新しい地域活性のモデルになる事を期待しています。
- ・ 市民活動の分野ではこれまで、何をどのように行うかという活動計画に力点がおかれ、組織づくりをどう進めるかという側面はあまり議論されてこなかったように思います。NPOや社団などの法人化の進め方は確立されていても、それは組織づくりの本質ではありません。その点で、今回のおやまちプロジェクトの提案は、活動と同じように組織づくりが掲げられていて、とても注目しています。
意思決定の道すじが合意されていることなどは、概して組織づくりの肝と言われますが、皆さんが望ましいと思う組織とはどのようなものでしょうか。「無理なく稼げる」「無理なく運営できる」とは具体的にどのようなことなのか、ぜひ議論を尽くし、おやまちプロジェクトの運営組織の形を見つけてほしいと思います。そしてまた、一連の議論の過程を記録し、広く共有できるようにしてほしいと思います。今後期待しています。
- ・ 助成1年目の活動の質と量に加えて、その振り返りに基づく2年目の活動のデザインにも優れており、それらによって3年目以降の組織形態が明確化されることが十分期待できる企画になっていました。順調に進んでゆけば、住宅地エリアに立地する商店街の将来のあり方とともに、大学・学生の地元地域との関わり方を示すモデル的取り組みになり得るでしょう。今後の取り組みにおいては、多くの方々の参画のもと、エリア自体の将来ビジョンを制作・共有するプロセスが重要になりますが、おそらく2月のシンポジウムはその第一歩として重要な機会になると思います。1年後にこのプロジェクトがどのように育っているのか楽しみにしています。
- ・ 大学と商店街、小学校と商店街という組み合わせの活動はよく見ますが、この三者が一緒になった活動はユニークだと思いました。商店街は時代の流れ、景気の波によっていろいろあると思いますが、現在この活動に集まっている小学生が、中学、高校、大学生になってもずっと

と活動に関わり続けているような息の長い、地域にしっかり根付いた活動となるよう工夫努力してください。

- ・ コツコツと自分たちの形を模索して進んでいる様子に、おやまちプロジェクトさんの成長を実感いたしました。どこを目指して進むのか、今回作った仮説とプランを軸に、1年間見極めていていただきたいと思います。
- ・ 施策実施に松竹梅パターンを設定し、各施策の目的、期待する成果が明確になっている点に安心感を覚えました。小学校と商店街の新しいコラボレーションにも期待しています。
- ・ ネットや大店舗で買い物をするといったライフスタイルの人が増えている昨今で、買い物をする場であるだけではなく、地域の商店街が担う役割はご提案いただいている地域のプラットホームとしての役割を模索する時代になっていると共感いたします。
大学や専門家との連携の中、1年目にすでに実施済みのプロジェクトや組織づくりのステップ、新規事業の検討などの取り組みを通して、しっかり検証（棚卸し、ノウハウ化、なぜそれができたか？など）していただき、同じような規模や課題を抱える商店街やコミュニティとの情報共有を通して商店街が抱える課題解決のわかりやすいモデルになってほしいと期待しております。
- ・ 助成決定、おめでとうございます。良き仲間たちに恵まれ、そして地域にコミットする必然も相まって、今後のみなさんのご活躍がとても楽しみです。2年でキラ星は終わりますが、2年で成長軌道に乗るなんてことはなく、メンバーの入れ替わり、様々な不確実が事由によって、想定外の課題が待ち受けます。審査上、プランの精度は求めますが、結局のところ、様々な課題を乗り越えるためには、中心メンバーのコミットが最大にして最重要な要件だと信じています。ぜひ、尾山台を世田谷一のまちづくりのメッカにしてください。ぜひ、全国の商店街にとって、最優良のモデル事業に育ててください。